

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら荘
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	泉南市新家3566-4
記入者名 (管理者)	三保谷 富美代
記入日	平成 21年 8月 5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念を軸とし、グループホーム理念として、 ①尊厳のある、心豊かで安らかな生活を送れる環境づくりを提供します。 ②本人寄り添いその思いや希望を受け止め、利用者本意の支援を行います。 ③地域社会とのつながりの中で、自分らしく暮らし頂くことをサポートします。 ということを揚げサービスの提供を行っています	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日欠かさず業務に入る前の朝礼時には、意識付けが出来るように職員そろって理念を唱和している。また、ホーム内にも、各所に理念が掲示されており、入居者、及び入居者家族等とも共有しやすい環境になっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は来訪者の誰もが目につきやすい玄関正面に掲げており、当ホームの姿勢を表している。日々のサービスは、その理念に基づいた介護計画書に沿っていて、ご家族様には、充分ご理解頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の挨拶は、ホーム側からの声掛けにて行い、明るい事情所という印象をもっている。門扉から、玄関にかけても、開放的な雰囲気になっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元、下村老人会(むつみ会)の催し物や有形文化財 山田家の見学、月1回開放日(マンドリンコンサートなど)、また、泉南市女声合唱団コンサートにお誘いして戴ける機会があったり、しんげっこという子育てサロンに参加される等、地元の方々との交流につなげています。	事業所、別館を老人会の催しなどに役立てていただき、入居者様との交流の場となれば、と考えております

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地元の方々との交流の場として、年間行事である夏祭りや餅つき大会等を開催し施設を開放し、地域の人々やご近所の独居老人等を招いているが、なかなか大勢の集まりには参加して頂けてません。</p>	
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>過去に外部評価を何度か受審している。その都度、評価結果を踏まえ、ミーティングを開催し、職員同士で意見交換を行うことで、業務改善を行うようにしている。自己評価も職員皆んなで実施し、業務を見直す機会としている</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で地元の子供たちとの交流を図る場として「しんげっこ」を紹介して頂きました。今では、毎月小さい子供さんたちとの交流を入居者さんたちも楽しみにされておられます。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議とは別に、年4回市町村担当者と泉南市内グループホームと小規模多機能の代表者数名が、お互い情報交換の場として話し合うことができる「地域密着型意見交換会」に参加し、サービスの質の向上につなげている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されておられる入居者さんがおられるので、実践を通して学ぶ事ができている。地域福祉権利擁護についても、正式ではないそうですが、利用されておられる方がいるので、地域包括支援センター、及び社会福祉協議会の方に協力して頂きながら、入居者様の支援に努めています</p>	<p>成年後見制度、地域福祉権利擁護については、府社協、一般主催の研修に参加し、職員も勉強しています</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員代表が府社協主催の当関連法の研修にさんか、施設内の勉強会で、職員に水平展開をしている。さらに以前より、インターネットなどで、当関連法の情報を取得し法令順守に努めている。また、社内研修においても、議題として取り上げている。</p>	<p>既に何度も勉強会などで、職員個人での意識は徹底しているが、言葉遣いなど、職員が気づかないこともあるので、職員同士で、不適切な言葉遣いをしていないか、常に話し合い、常に意識するようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問がないか尋ね、十分に理解、納得して頂くように努めています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に、コミュニケーションを図り、入居者の意見や不満などを聞くように努めている。また、家族様を通して不満など、訴えがあるときは、状況に応じて入居者様、家族様を交え適宜カンファレンスを行い、問題解決に取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回の家族様への報告書、また、金銭については、個人ごとの金銭管理台帳を作成し、報告している。また、来荘時には個別に責任者が近況の報告をおこなっている。病変時については、その都度報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様来荘時に、意見聴取が行えるよう積極的な声掛けを行っている。併せて雰囲気づくりも大切にしている。カンファレンスにもできる限り参加して頂くとともに、玄関には、ご意見箱を設置し、また苦情担当者を配置し、ご家族様からの発信を受け止められる体制にしている。以上の内容については、月1回のミーティングにて職員全体が共用している。</p>	<p>ご家族様が意見を言いたくも言えない遠慮があることを考え、言って頂きやすい雰囲気づくりのため、催し物などでさらに交流を深め、気軽に発言して頂ける関係を今以上に構築していく</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングでは、各職員個人ができる機会が設けられている。その議題については、ディスカッションし、皆の意見の意思統一の下決定されている。議事録を設け、後日問題点がないか、再度確認することになっている。</p>	<p>月1回の開催を待たず、必要に応じて適宜ミーティングを行っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事内容や緊急時の対応の際には、職員の確保に努め、勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、元1Fの介護計画担当者であり馴染みの関係にある。元管理者も退職せず、いまだパートで勤務している。職員の退職については、最低1ヶ月前には、会社に申出るようにし、スムーズに異動を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	府社協など開催の社外研修並びにホーム内での勉強会及び母体法人での合同研修により、学びの機会を確保している。外部研修参加後は、ホーム内での報告・勉強会を行っている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同経営、姉妹グループホームと交互研修を行っている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	飲み会や、ボーリング大会、忘年会など行っている	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職業規則において、ヘルパー2級、1級介護福祉士、介護支援専門員等の資格手当を設けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	初回、面談時より本人様からの要望をしっかりと聴き取り、ご本人よりの聴き取りが困難な場合は、ご家族さまより、情報を得ている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	インテーク～入居に至るまでのご家族のニーズの変化もふい組め、十分な聴き取りを行っている。また、その意見も受容、援助内容に反映するように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時のニーズの把握に努め、当施設の対象となり得るか否かを判断し、説明を行い、入居当初の介護計画(暫定)を立て、同意を得ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を経験して頂き、御本人様、ご家族様双方、納得された上での契約となります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の方々を家族のように思い、過去の生活暦より活動の場を提供し、喜怒哀楽を共にする姿勢で、常に援助を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、何事においても、常に家族様と連絡をとり、ご家族様と共に同じ方向性を持ちながら、入居者様の支援を行うように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が家族と入居者の良きパイプ役となり、互いの意見に耳を傾けながら、より良い関係が築いていけるように、努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にされているお友達や知人からの、お便りや電話など元気で過ごされていることなど、本人様がお伝えしにくいことについては、職員がくちをはさみ、楽しく会話されるように支援を行ったり、また、ご来荘された折には、歓談されるように見守りを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ目標、目的をもって行えるレクリエーションや作業を取り入れ、時間の共有や達成感を味わえるように、日々のプログラムを考慮している。また、できない部分への援助を行い、職員が仲立ちしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、近隣の方々の立ち寄りや退所後も定期的な家族様のボランティアによる大正琴の演奏会など、感謝の言葉と共に頂くときは、職員一同感激し、より一層頑張りたいという気持ちになり、励みとなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の言葉や行動により思いや「こうありたい」という意向を見出し、可能な限りその方の希望に添えるよう支援に努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から、細かく現在に至るまでの生活状況を聞き取り、スタッフ全員で、入居者一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしさを保持し続けるための支援につとめている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に介護計画を立て、それに添い援助を行っている。日々の介護経過記録に現状を詳細に記載しスタッフで共有することで、常に、その方の「今」に目をむけ、自立した生活への援助に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、利用者本人を主体とした「本人発の生活のあり方」に目をむけ、本人、家族と話し合いながら、介護計画作成に努めている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジメントにおける一連の作業を実施し、その都度その人にあった介護計画の作成につとめている。また、身体状況の変化、認知症の進行など、状況に応じ適宜計画の見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や体調管理は詳細に介護経過記録に記載し、その方の発した言葉や、表情なども記入することで、その人の立場に立って感情なども感じとり、本人が暮らしたいかを追求し計画の見直しに反映させている、		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の要望に応じ、食事メニューの変更や個室内の家具の配置の変更など、より快適な生活、自立しやすい生活を目指し、柔軟な支援を行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市民ボランティア(歌体操、粘土細工、三味線、大正琴、マンドリン、)に定期的な訪問、または、月1回外出して(新家っ子、山田家、)介護相談員の来荘(月2回)、地域の方々のお誘いにも参加しております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	各個人の必要性に応じ行っている。医師の指示により、医療保険適用の作業療法に参加させて頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、他市町村の地域包括支援センターにお世話になっておられる方がいらっしゃるが、家族さまが、協力して下さるので、協働というほどではない。入居当時は、包括センター、社協といろいろ相談にのって頂きながら、入居者さまの支援に努めておりました。		同市の地域包括支援センターの職員には、運営推進会議で、色々と相談にのって頂いている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を取り入れ、ご本人の病状や体調に合わせて適切な医療を受けられるように支援をおこなっている。また、受診希望の医療機関があれば、ご本人、ご家族と相談し、迅速に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>流行感染症(インフルエンザ、ノロウイルス等)に対する、知識の向上、対応の統一化をはかるための勉強会の実施 感染委員会、上記以外でも介護職員として必要な医療知識を得るために、勉強会の実施。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>サマリーの活用(施設 病院)</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>見やすい位置に、名札をかけたリ、目印になる物を置いておくなど、工夫する</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の価値観や生活暦を大切にして個人に相応し言葉かけや声のトーンにも気をつけ対応しています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員全員で、個人の情報収集に努め、できるだけ、利用者様本人に選択してもらえるように支援しています	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にスタッフが動くのではなく、スタッフが入居者個人のペースを保てるように心がけケアをしています	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理、美容は、散髪を得意とする職員が数名いることもあり、髪が伸びてきた頃、本人様の希望を聞きながらカットしたり、また美容院に行かれることを希望されているときは、家族、または、職員が同行させて戴いています	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の嗜好にあわせた献立をとりいれている。入居者の方が十分に力が発揮できるようにスタッフが見守り出来る能力の継続に努めています	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医との連携をとりながら可能な限りご本人の望むような支援が出来るようにしています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄ペース、サインを見出し、失禁前にトイレ誘導を行うようにし、個人の行動をスタッフが把握し、排泄の失敗へのダメージ軽減に努めています		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には、週3回ではあるが、ご本人の希望により随時入浴できるようにしている。入浴剤にも工夫し温泉気分を楽しんで頂いている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にレクリエーション、散歩などで、刺激をもって楽しく過ごして頂き、夜間良眠して頂くようにしています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味や楽しみ事に合わせ、日々の生活を送れるように支援している。カラオケ、花観賞、家事仕事などして頂いてます		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、買い物に出かけたときに、自身で支払いされている。来荘時にご家族の方に金銭出納簿を閲覧して頂き承認のサインを頂いています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	元気のいい日は体調により散歩に出かけたり、ご本人の希望されるときには、買い物などの外出支援を行っています		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設においては、外出レクにて、チューリップ園や関空見学、みさき公園など出掛けている。(遠出して頂くときは、必ず看護師が同行、また、入居者様の体調にあわせて、時には、家族様も同行をお願いしています)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに配慮しながら、自由にやり取りができるように個別に支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪ねやすいように、スペースの工夫、物品の用意を心がけている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつ、いかなるときで、どんなことがあっても拘束は行わないことを、徹底している。ただし、本人様に危険が伴う場合のみ、本人、家族の同意のもと、泉南市の方に「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」を提出の上期間限定で、行うこととする		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中カギをかけなくてもいいような工夫に取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動きやサインを察知し、さりげない態度で常時見守る事を、心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品をすべて取り除くのではなく、危険をふせぐための取り決めを行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの上方や危険への気づきを収集、検討し事故防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生に確実に適切な行動がとれるよう技術を身につけるように努力している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の状況を踏まえ、万が一の災害時に避難策の検討をおこなっている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全を確保しつつ抑圧感のない自由な生活を支援する為、家族の納得と理解を得られるよう努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の普段の様子を知り、常に変化や異常の早期発見を心がけている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用用法、用量を理解し飲み忘れや誤薬を防ぐ為の取り組みを行っている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、それぞれに応じた自然排便を促す為の工夫をおこなっている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを理解し本人の習慣や持っている力を活かしながら、口腔内の補正に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士の指導のもと、メニューは作成されている、そして、個々に食事量、水分チェック表をつくり、把握に努めている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月1回、感染予防委員会を開催し、記録ノートを作成し、全職員に周知している。感染症マニュアルも作成している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、手すりや取っ手など、1日3回の消毒を行い、衛生管理に努めている。また、夜勤帯には、まな板、ふきんのハイター消毒も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、季節の草花を植え、訪問して戴きやすい環境づくりを心がけている。(玄関の美化に努めている)		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りを入居者さんと作成し、入居者の方々が居心地の良いように工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	戸外ベンチ、玄関付近のソファ、2Fベランダなど気の合った利用者同士で過ごせる場所を提供している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を伴わない限り、ご本人の希望に添うような居室づくりに努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに温度調整を行っており利用者様の自室のみならず、ホーム内の寒気もこまめに行うようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置している。浴室には、滑り止めや必要な所にイスを使用し、自立に向けた支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の自室には、目の高さに大きな文字の表札を掲げたり、ドアに飾りつけなどしたりして自室がわかる工夫をしたり、トイレや食堂などの表示も行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には、ベンチを置き外気浴やおやつ時に活用している。ベランダでは、洗濯物干しなど、手伝って頂いたり、など自立に向けた支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様がさくら荘での生活が自分の家というような感覚で、生き活きと生活して頂けるよう、支援している。 少しずつ、色々な方と関わっていることで、地域の方々と交流する機会が増えてきています。 ご近所での催し物に誘って頂いたり、また、何かのボランティアとして来荘して頂いたり、入居者様がひとつでも多く楽しめるように、心がけています。